Kochi International Association

（財）高知県国際交流協会
2010 世界の笑顔集まれ

WINDOW

日本語ボランティア研修

高知日本語サロンの様子

日本語ボランティア講師養成講座スキルアップコース

2010
Spring
No.52

特集 在住外国人のための日本語学習支援への取り組み

- 国際観光ボランティアガイド養成講座を開催しました
- 外国人も南海地震に備えチョキ✌ －平成21年度の在住外国人のための南海地震対策－
- 世界の現状について学ぼう！（国際ふれあい広場2009）
- Letter from abroad
  下元　愛（ケニア共和国）
- 学生インターンを終えて
- 民間国際交流団体の紹介
  高知希望工程基金会
- 第14回高知県文化環境功労者表彰
  安徽省日中友好の森づくりネットワーク
- INFORMATION　BOARD

国際観光ボランティアガイド養成講座を開催しました

平成21年11月下旬から12月初旬にかけて、４日間の日程で「国際観光ボランティアガイド養成講座」を開催しました。この講座は、近年増加傾向にある中国・韓国からの観光客に対して県内の観光名所などを中国語・韓国語で案内するなど、外国人観光客が県内で有意義な旅行を楽しむためのお手伝いをすることができる語学ボランティアを養成し、本県の国際観光と県民の国際交流の推進に寄与することを目的として、今年度初めて開催したものです。

高知城ガイド演習

本県の外国人観光客の半数以上は中国・韓国などのアジアからの観光客で占められています（図１）。昨年７月に中国人富裕層に対する個人観光ビザが解禁されるなど、今後、アジアからの観光客数が増加することが見込まれる一方で、県内の観光施設にある案内板などの外国語表記が十分に整備されていないなど、県内における外国人観光客の受け入れ体制は脆弱な状況にあると言えます。特に、知事が先頭に立って進めている産業振興計画で「観光振興」を重点政策の柱とし、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送を機に県外からの観光客の入り込みを期待している本県は、縮小する日本人だけを相手にして事業を推進するよりも、こうしたアジアからの外国人観光客にもっと目を向け、「国際観光」を大きな成長分野として位置づける視点を持つことが、今後ますます重要になってくるものと思います。

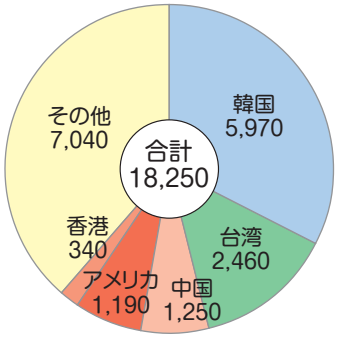

図1（平成20年の県内の外国人延べ宿泊者数：観光庁調べ）

こうした県内外・国内外の状況を見極め、当協会として県勢浮揚のために何ができるかを熟考したとき、事実上英語だけの対応になってしまっている県内の国際観光ガイドをテコ入れすることを思いつき、今回の養成講座の企画立案に至ったわけですが、私どもの思いを十二分に汲み取ってくれたのか、当初の募集人員20名（中国語・韓国語10名ずつ）をはるかに上回る50名の県内在住の方々から応募をいただきました。これは、地元の新聞社が募集記事を大きく取り上げてくださったことによるものが大きいですが、応募者全員がやる気のある方ばかりでしたので、最終的に50名全員を受け入れることにしました。

机上学習

講座の目標は、本県の観光ガイドの登竜門とも言える「高知城」の12のガイドポイントを中国語・韓国語でガイドできるようになることでした。まず、机上学習で外国語の表現などを覚え、自宅などで自主学習したのち、本物の高知城でガイドの練習をしました。高知に住む人間なら誰もが一度は登っているはずの高知城ですが、高知城を他人にしかも外国語で説明するとなると、高知城に関する知識不足と日常会話では使わない数々の難解な語彙が、受講者の学習の壁となって立ちはだかりました。

全日程を終えて最終的に41名（中国語19名、韓国語22名）の方が残り、当協会の国際観光ボランティアガイド１期生となって、観光ガイドデビューをするためのスタートラインに立ったわけですが、今回の講座を通じて受講者は国際観光ガイドの難しさとともに、高知の魅力を得意の外国語で伝えることから得られる喜びも味わうことができたのではないかと思います。今後も更なる研鑽を重ねていただき、外国人観光客に喜んでもらえるような国際観光ボランティアガイドになっていただけるよう、当協会としてもこの41名の新人ボランティアガイドへの支援に努めたいと思っています。

外国人も南海地震に備えちょき

―平成21年度の在住外国人のための南海地震対策―

平成21年６月６日（土）と７日（日）に行われた「災害時語学サポーター養成講座」以降の事業内容についてまとめています。養成講座については前回のWINDOW51号をご覧ください。

１．折りたたみ式災害用携帯カード（タガログ語・ベトナム語）の発行

タガログ語版カード

平成20年度に発行した４カ国語版（英語・中国語・韓国語・インドネシア語）のカードを、今年度はタガログ語とベトナム語で発行しました。災害が発生してから２～３日の間に必要な情報をコンパクトにまとめた名刺サイズの折りたたみ式携帯カードで、災害時に必要な個人データを書き込める欄も設けてあります。希望者には配布しますので当協会までご連絡ください。

２．ＦＭ高知での災害放送訓練

災害時語学サポーターの技能向上を目的に、平成20年度に初めて実施したFM高知（高知市鷹匠町）での災害放送訓練を今年度も平成21年８月26日（水）に行い、災害時語学サポーター９名（英語３人、中国２人、タガログ語３人、インドネシア語１人）が参加して、交通・道路状況などの大地震発生から数時間後に想定される災害情報を外国語に翻訳し、実際の放送室で放送しました。

３．南国市での防災訓練

平成20年度に県内で初めて実施した在住外国人対象の防災訓練を今年度も南国市で平成21年11月１日（日）に開催し、外国人参加者40名と災害時語学サポーター、共催団体の南国市国際交流協会の会員を含む60名が、南国市消防署員の指導の下、心臓マッサージとＡＥＤの使用などの心肺蘇生法を学習しました。消防署員の日本語による説明を災害時語学サポーターが通訳し、日本語の理解が不十分な外国人参加者の理解を助けました。

４．６カ国語版の応急手当マニュアルの発行

㈶救急振興財団が発行した「改訂３版応急手当講習テキスト」にある心肺蘇生法、止血法、固定法、搬送法を中心に上記６カ国語に翻訳したもので、日本語の理解が不十分な在住外国人が、救急救命講習を受講する際に発生する言葉の壁を取り除き、救急法の正しい知識と技能を身につけてもらうために作成しました。また、消火器の使い方と地震体験車に乗車する際の注意点も記載し、在住外国人が地域の防災訓練に参加したときなどにも利用できるように工夫しています。希望者には配布しますので当協会までご連絡ください。当協会HP上のPDF版をご利用になっても結構です。

５．やさしい日本語版の南海地震啓発パンフレットの発行

平成19年度に当協会が発行した６カ国語版の南海地震啓発パンフレットの言語を理解できない方で、やさしい日本語なら理解できる在住外国人をカバーするとともに、日本語を学習する在住外国人にも利用していただこうと、高知県が発行した冊子「南海地震に備えちょき」の本文ならびに写真やイラストを多く取り入れ作成しました。作成に当たっては在住外国人に日本語を教えるボランティア団体「高知日本語サロン」（**「特集」コーナーを参照**）の有志メンバーに協力していただきました。希望者には配布しますので当協会までご連絡ください。当協会HP上のPDF版をご利用になっても結構です。

特集 在住外国人のための日本

県の統計によると、平成21年12月末現在、県内在住の外国人登録者数は3,625人となっており、居住地域も高知市周辺に限らず県下全域にわたっています。こうした在住外国人の方々が、日本・高知で安心して快適な生活を送るためには、日本語の習得が不可欠であり、日本語学習希望者も年々増加傾向にあります。

当協会では平成３年度から「在住外国人のための日本語講座」を開催していますが、増加傾向にある日本語学習希望者の要望を全て満たすことは不可能な状況です。

日本語をより深く理解してもらうためには、日本語学習者のレベルやニーズに合った教授法や教材などが必要ですが、高知県ではまず日本語教育の専門的知識を持つ講師の数が充分ではありません。そのため、当協会では平成16年度から「日本語ボランティア講師の養成」に取り組んでいます。養成講座には“初級コース”“スキルアップコース”のほか“日本語ボランティア研修”があり、各個人のレベルに合わせて受講することができます。

今回の特集では、長年日本語学習支援に取り組まれてきた先生や当協会の養成講座を受講されて、ご自身のレベルアップを図られ、日本語講師として活躍されている方々から、日本語学習の課題や指導する楽しみなどをお伺いしましたのでご紹介します。

日本語教育の現場で　日本語講師　池　純子

生徒さんたちと（中央が池先生）

外国人が「日本語を学ぶ」といっても、その学ぶ目的はさまざまです。たとえば、留学生なら将来の仕事のために、国際結婚で来日した人なら、家族や近所の人との挨拶や簡単な会話ができるようにと日本語を学び始めるかもしれません。学習者の背景が違えば学ぶ内容も学び方も異なってきます。

私が長年かかわってきた中国帰国者の日本語学習では、まずは職場の人間関係を円滑にする表現や、危険を知らせる表現を学ぶことが必要になります。彼らの多くは日本語が片言しか話せない段階から仕事をし始めるからです。上司が「あんた」と呼ぶので「あんた」と呼び返したら叱られたという話や、「火事です！」という日本語がわからなかったばっかりに、危うく命を落としそうになったという話もあります。

日本語を学んでいるのは大人ばかりではありません。平成20年度の文科省の調査によると、全国の公立小・中・高等学校に在籍する日本語指導を必要とする子どもの数は28,575人で、年々増加傾向にあり、教育現場の新たな課題になっているそうです。高知でも従来の中国帰国者の子弟に加え、最近では国際結婚で来日する子どもが増えています。「子どもたちは放っておいても日本語はすぐ覚える」と思われがちですが、教科学習の面からみると、日本語で思考能力がつくまで７，８年かかるとも言われ、長期的支援が必要になります。

日本語を教えていて面白いのは、外国人の素朴な質問を通して日本語の不思議さを体験できる「自文化発見」です。日本語を教え始めたころ、「先生、大きい雨が降っています」と学習者が言うのを聞いて、「日本語には、『大雨』はあっても『大きい雨』という表現はないんだなあ」とはじめて気づきました。また、文化によって異なる習慣や考え方に接していると、自分の中の「偏見」が少しずつ緩んできて、視野が開け得た気分になります。

日本語を介し互いに学びあい繋がっていく、この小さな積み重ねが日本語学習支援を続ける根っこになっている気がします。

池　純子　先生

プロフィール
1991年より日本語教育にかかわり、現在は当協会をはじめ大学や中国帰国者のための日本語教室、日本語教授法の講師も務めている。

日本語ボランティア講師養成講座を受けて　日本語ボランティア講師　近安　芳江

近安さん

日本語の教え方を学びたいと思った理由は、職場での色々なALTの人たちとの出会いでした。みなさん、本当に熱心に日本語を学ぼうとしていて、その姿勢に私も役に立ちたいと思いました。英語力が高校卒業程度しかない私は、英単語で会話するのがせいぜいで、聞かれた時にうまく日本語を教えられないのは、自分の英語力のせいだと思っていました。そんな時、新しい職場で出会ったALTから国際交流協会の事を聞き、日本語講師養成講座があることを知り受講し、日本語を教えるのに最も大切なのは英語力ではないことを学びました。現在、高知日本語サロンでボランティア活動をしていますが、日本語文法よりも日常生活の中で使う「言葉の使い方」を教えることを心がけ、相手の想像しやすい内容で学習を進めています。学習を通して、色々な国の習慣や人の価値観を知ることができ、新しい発見が毎回楽しいです。

語学習支援への取り組み

2009日本語ボランティア研修

協会では、毎年「日本語ボランティア講師養成講座（初級コース）」「日本語ボランティア講師養成講座（スキルアップコース）」を開催していますが、さらに、ボランティアとして、在住の外国人に日本語を教えている方々を対象に「日本語ボランティア研修」も開催しています。

本年度は、11月８日午前中に、高知県人権啓発センター６階ホールで、「2009日本語ボランティア研修」を開催しました。㈳国際日本語普及協会の松尾恭子氏を講師としてお迎えし、地域の市民活動としての日本語支援・コミュニケーションのコツについて、ワークショップを含めた内容の研修でした。参加者は24名と例年より少なかったのですが、レベルアップの機会として、熱心に取り組んでいました。

松尾恭子氏

日本語ボランティア研修に参加して

日本語講師　佐藤　恵子

今回の研修ではAJALTの松尾恭子先生が、国内の日本語学習者の歴史、国際化社会に出会う最前線が日本語教室であり、同じ地域に住む市民として寄り添うこと、外国人市民が求めているものは居場所であることなどを話してくださいました。

また、研修後半ではリソース型生活日本語を利用して地域独自の教材を作るワークショップなども行われました。

「リソース～」は、サイトの存在は知っており、登録して閲覧し、その膨大なデータに驚いたこともあったのですが、それをどのように日々の日本語教室に活用していけばいいかがわからずにおりました。

日本語ボランティア研修を受ける佐藤さん

今回の研修で、多言語の目次をニーズ調査に利用できること、個人で利用するのではなく、グループで協力して地域独自の教材を作るやり方などを教わり、今後の活動に役立てていけるのではないかと思っています。

同じ高知に住む市民として、これからも外国人市民の方々がより高知での生活を楽しめるようにお手伝いさせていただきます。

参考　リソース型生活日本語　http://www.ajalt.org/resource/

当協会の「日本語ボランティア講師養成講座」の受講生は、高知日本語サロン*や個別指導などで活躍されています。

＊高知日本語サロン…ボランティアで日本語を教えるグループ。

高知日本語サロンの様子

当協会の日本語講座（初級Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, 漢字クラス）は外国人の方が地域に溶け込み、心地よく暮らしていけるよう、生活するために必要な日本語力をつけてもらうことを目指しています。

当協会日本語クラスの受講生から授業の感想を聞いてみました。

とっても授業が楽しいです。近所の人と話をする自信がつきました。（初級Ⅰ・イギリス）

習ったことはとても日常生活に役立っていますし、クラスに来ることで他の生徒さんと日本語を練習できるのも楽しいです。（初級Ⅱ・マレーシア）

日本語講座の様子

夫婦間の会話がスムーズになり、コミュニケーションが取りやすくなりました。（初級Ⅲ・中国）

難しかったけれど、楽しいです。書類を書くときにもとても役に立ちます。（漢字クラス・フィリピン）

在住外国人のための日本語学習支援とは、学習者がいかに生活に密着した日本語を学び、それを日常生活に活かしてもらえるようにすることだと思います。

当協会としても、日本語講師の方がスキルアップできる機会や日本語を学ぶ方のニーズに合わせた学習機会を提供できるよう今後も日本語学習支援に一層力を入れていきたいと思います。

お知らせ

●県西部、幡多地域で学習したい方へ

四万十市において当協会が行った日本語ボランティア講座を受講された方が日本語学習のお手伝いをします。興味のある方は当協会までお問い合わせください。

●活動してみたい方へ
外国語が話せなくてもできる国際ボランティア

＊平成22年度　講座開催予定（日程未定）
（募集要項は随時、当協会のホームページでご案内します）

- **日本語ボランティア講師養成講座（初級コース）**高知市会場・四万十市会場
  5月または6月の土曜日　開催予定
- **日本語ボランティア講師養成講座（スキルアップコース）**高知市内
  9月の土曜日　午前中　4回連続講座
- **日本語ボランティア研修　（レベルアップのための講座）**高知市内
  11月前半の日曜日　開催予定

世界の現状について学ぼう！

国際ふれあい広場2009

平成21年10月10日（土）と17日（土）・18日（日）の３日間、国際協力の啓発イベント「国際ふれあい広場2009」を高知市帯屋町の「ひろめ市場」などを会場に開催しました。10日には、オープニングを飾る国際協力識者による基調講演会と中学生による弁論大会を県人権啓発センター・６Ｆホールで開催しました。ラオスから1974年に来日し、以後日本から母国にラオス語の絵本を送ったり、ラオス女性のための職業訓練センターの開設・運営などをとおして祖国の発展と日本とラオスの架け橋として尽力してきたNPO法人「ラオスのこども」共同代表チャンタソン・インタヴォン氏を講師に招き、教育を取り巻くラオスの現状と教育環境の整備のあり方について講演をしていただきました。

チャンタソン・インタヴォンさん

講演で「ラオス版社会保障制度」という話がありました。社会主義国であるラオスは日本の本州くらいの国土にわずか600万人ほどしかいませんが、47の民族がそれぞれ異なる言語を話すため、ラオス語しか知らない都会の教師が田舎の学校で言葉が通じないためにパニックになりすぐに帰ってしまう者もいたりとか、田舎では学校の絶対数が足りないため、村に学校がない場合に遠くの学校に行くため寮生活をしなければなりませんが、小学生は寮から逃げ帰る者もいたりするなど、日本では考えられないようなラオスの教育の現状に唖然とさせられる一方で、このような遅れたラオスの教育環境の整備に一役買っているのが「お寺」で、貧しい家庭の男子は寺に入り、そこで教育を受け大学まで行く者もいるという、これまた今の日本では考えられない話を聞いて、社会主義国でありながら仏教が国民に厚く信仰されているラオスならではの社会保障制度なのだと納得させられました。

講演後、書類選考で選抜された９名の県内中学生による国際協力などをテーマにした弁論大会を同会場で開催し、発表者全員がそれぞれの経験や思いなどを述べる堂々とした素晴らしい意見発表をしていただきましたが、中でも土佐塾中学校３年生の千村悠布香さんによる国際ボランティア活動を題材に発表した弁論が最も優れた発表として「大賞」に輝きました。国際ボランティアは与えるだけではなく自立支援という立場から、本当に相手に喜ばれるボランティア活動とは何かを自身の将来の職業像と重ね合わせながら熱弁していただきました。「大賞」を受賞された千村さんには賞状と副賞として協賛団体であるJAL高知支店から高知・東京間往復航空券が授与されました。

千村悠布香さん

17日（土）と18日（日）には、当協会を含む県内国際交流・協力団体13団体と共催のJICA四国、JAL高知支店がひろめ市場イベント広場と帯屋町商店街特設会場に出展し、国際協力・国際交流パネル写真展、開発途上国の民芸品展示販売会、JICAボランティア相談会、ユニセフ募金活動などを実施し、２日間で延べ約９千人のお客さんに足を運んでいただき、国際ボランティア活動の意義を多くの県民の方に理解していただくことができました。

メイン会場の「ひろめ市場」

☆出展15団体（順不同）☆

特定非営利活動法人アジア文化交流会、中国帰国者の会、国際ソロプチミスト高知、安徽省日中友好の森づくりネットワーク、高知SGG善意通訳クラブ、グアテマラ生産者支援ネットワーク「みるぱ」、特定非営利活動法人Brain、アジア僻地医療を支援する会、高知県青年海外協力隊OB会、奥村多喜衛協会、高知県青年国際交流機構、高知県南米移住家族会、国際協力機構四国支部（JICA四国）、JAL高知支店、高知県国際交流協会

Letter from abroad

ケニア共和国からのたより

JICA青年海外協力隊
エイズ対策　　下　元　　愛

学校での啓発活動（前列中央が筆者）

エイズ対策隊員として派遣された私の任地ニャンザ州ニャミラ県はケニアの西側に位置し、人口約31万人、面積396㎢、標高1700～2000mの山間部で緑豊かな土地です。私はニャミラ県保健事務所に2009年５月から配属されました。主な活動としては県病院でHIV陽性者のサポートを効果的に行えるよう、病院スタッフや保健事務所職員へ助言したり、HIV/AIDSの予防啓発活動のために遠隔地域にある学校を訪問したり等です。特に力を入れているのが、病院に来なくなってしまった陽性者のサポートです。病院に来なくなる理由は大きく二つあり、一つは根強く残るHIV/AIDSへの偏見の問題、もう一つは病院までの交通の問題（交通が整備されていない、交通費が支払えない）です。ケニアでは薬（抗HIV薬：ARV）は無料で支給され、薬さえ正確に飲めばHIVに感染していても長く健康な生活をおくることができます。しかし、病院に来なければ彼らは生きるチャンスを失ってしまいます。そればかりか、一度ARV治療を開始した人がARVを正確に飲まなくなるとHIVウイルスは簡単に薬剤耐性化（HIVウイルスがARVの効かない形に変わる）してしまい、薬が効かなくなってしまいます。そして薬剤耐性化したHIVウイルスを他人にうつすと、うつされた人は最初からARVが効きません。薬剤耐性化したHIVウイルスを広めないために、そしてHIV陽性者の人生のためにも、病院から遠ざかった彼らを援助することが大切だと考えています。そして、私の帰国後も現地の人々だけで活動を継続していけるよう、現地のスタッフを巻き込みながら日々奮闘しています。

学生インターンを終えて

今年度も８月から９月にかけて大学生の学生インターンを１名受け入れました。昨年度から始めましたが、今年度も期待通りの優秀な学生から３名の応募があり、学生が希望する期間と当協会の受入可能期間を考慮した結果、神谷由里奈さんを受け入れることに決定しました。ここでは神谷さんのインターンを終えてのレポートを紹介します。

「人との温かいつながりを感じた10日間」

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科３年　神谷由里奈

10日間のインターンシップは、毎日が新しい発見と出会いで学ぶことがいっぱいでした。インターンシップに応募したきっかけは、春休みにカナダに行き、そこでアジアをはじめとする国の人々と出会ったことで国際交流に興味をもち、実際の活動についての理解を深めたいと思ったことでした。今の自分に何ができるのか不安な部分も多々ありましたが、国際交流協会の職員の皆さんと出会って温かく接していただき、様々な貴重な体験を通じて、充実した10日間を過ごすことができました。

日本語ボランティア講師養成講座などに同行する中で、強く感じるようになったことは、国際交流やボランティア活動は、どちらか一方が理解し歩み寄ったり、支援をしたりというものではなく、双方向のものであり相互作用しているものだということです。実際にボランティアをされている方のお話や生き生きとした表情からそのことが伝わってきて、そのような活動は国境を越えて人と人の心の繋がりを形成するものだと感じました。また、協会の活動はこのような温かい繋がりの架け橋となっているのだと思います。

今回の実習で協会の方や地域の方から学んだことを、今度は私が主体的に行動し発信していきたいので、視野を広げて様々な人との関わりを大切にしながら、日々精進していきたいです。

民間国際交流団体紹介

『高知希望工程基金会』

会長　前田　正也

97年に会が誕生し、今年で13年目を迎えました。最初の活動は、中国安徽省祁門県で始めた困窮児童への就学支援です。98年夏、現地で会った一人の女の子の言葉を今でも覚えています。

「私には写真がありません。今、一緒に撮った写真をくださいませんか。」

山を下りて、乗合バスに乗って、会いに来るのに4時間もかかったそうです。手に持った懐中電灯は、帰りの暗い山道を登るためだと聞かされました。

そのときのこみ上げる思いが、私たちの会の精神と活動の原点になっています。

小さなNGOですが、これまでに中国安徽省と青海省で希望学校の建設（６校舎）と老朽校舎の修復（３棟）を行うことができました。集中豪雨で校舎が崩壊した高峰郷に、マイナス20度の寒風が吹き曝す標高3,400mの草原村に、待望の新校舎が完成していきました。

中でも８人の大学生が日本語教師として中国に渡り、述べ100人の学生スタッフが中国の農村を訪ね、心温まる交流活動を行ってくれたことが私たちの誇りです。

中国安徽省高峰郷希望小学校を訪ねて（09年09月）

2000年からは、JICA招聘の外国人研修生を受け入れ、交流国も中国、カンボディア、モルディブ、フィリピン、ラオス、インドネシアへと広がっています。

これからも本会のアドバンテージである人材育成力を高め、海外ネットワークを活かした国際交流活動を続けていきたいと思っています。

事務局連絡先：TEL/FAX（088）845－3550

※本会の一部海外支援事業は、国際ボランティア貯金とKIA助成金の支援を受けて実施しました。

第14回高知県文化環境功労賞を受賞

安徽省日中友好の森づくりネットワーク（代表　秦泉寺　昭雄）

高知県では、毎年、文化の振興や環境保全などの分野で功績があった個人又は団体を表彰しています。平成21年度は「安徽省日中友好の森づくりネットワーク」が、国際交流の分野で同賞を受賞されました。

「安徽省日中友好の森づくりネットワーク」は、平成13年の発足以来、毎年、高知県と友好提携を結んでいる中国安徽省において植樹活動を行い、安徽省における水源林の造成や緑化意識の普及に尽力してきました。また植樹活動にとどまらず、林業庁の職員や地元の中学生との心の交流も続けており、長年にわたって本県の国際交流の振興に寄与されています。

表彰式の喜びの表情

INFORMATION BOARD

GENKI青年会　土佐弁ミュージカル2010『かんざしファンタジー』！

毎年大騒ぎになる土佐弁ミュージカルは今年４月、華やかに上演します！

今年の演目は、土佐の皆さんにお馴染みの、はりまや橋とそのちょっと変わったおとぎ話の冒険物語。純信とお馬は幾多の苦境に陥った末、謎の老婆に「将来は幻のかんざしにかかっている…」と告げられます。その後、はりまや橋でかんざしを見つけた二人は、運命を決定しようとするその瞬間、かんざしと共に橋から落ちてしまいます！川の向こうには幻の異世界が待っていました。シンデレラや三匹の子ブタたちによる、別世界での冒険が始まります！果たして、純信とお馬の行く末は?! お楽しみに!!

2009年「牧野と豆の木」の一場面

ボランティアグループGENKI青年会は、高知県在住の外国人青年を中心として、平成８年から毎年「土佐弁ミュージカル」を上演し、地域の交流と高知の青少年を応援しています。毎年、海外留学を希望する高知県の中高大学生へ助成金を提供します。入場は無料ですが、上演後、募金活動を行いますので、どうぞご協力をお願いします。

４月17日(土)	本山町	プラチナセンター	14:00～
	土佐市	市民会館	18:30～
４月18日(日)	香南市	のいちふれあいセンター	14:00～
	田野町	ふれあいセンター	18:30～
４月24日(土)	四万十市	市立文化センター	10:00～
	四万十町	窪川四万十会館	15:30～
４月25日(日)	梼原町	梼原座	9:00～
	須崎市	市民文化会館	14:00～
	高知市	県民文化ホール	18:45～

お問い合わせ：スティーブン・ユイン
TEL：（088）823－9605
高知市丸ノ内１－２－20　高知県庁文化・国際課内

（財）高知県国際交流協会　〒780-0870　高知県高知市本町4-1-37
TEL：088-875-0022　FAX：088-875-4929　HP：http://www.kochi-kia.or.jp/　e-mail：info_kia@kochi-kia.or.jp